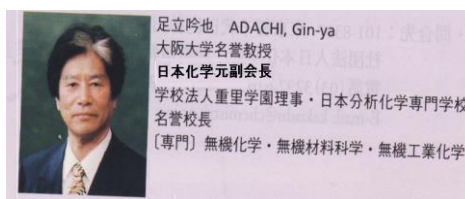
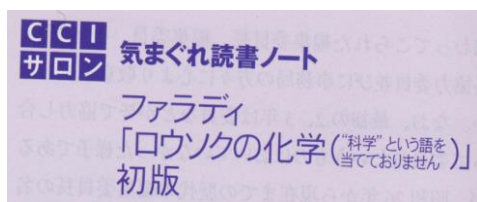


1861年に初版、5000部が出版されました。その表紙が青いので---ブルー版 (Griffin, Bohn and Co.) と呼ばれました。

1865年に出版された、第2版 250部は表紙が赤かったので---レッド版 と呼ばれています。

このあたりの事情を含め Faraday のローソク本を愛する足立大阪大学名誉教授の記事があります・

化学と工業 vol.60-9(2007)



\* 近頃はコンピューターインターネットが発達したおかげでいろいろの本の原本が無料で手に入ります。  
例えば project Gutenberg  
プロジェクト杉田玄白  
等です。

更に言えば、**You Tube** で**動画**まで手に入ります。

Ian Russell

1－2) 日本語への翻訳書をあつめてみました。

こんなに沢山の翻訳が必要なのでしょうか？

英文の表題が「**化学**」なのに日本語の翻訳が「**科学**」になっていることに足立先生も疑念を表しておられます。

矢島さんの「訳者付記」を見ると

「訳書名は原書の逐次訳「**ロウソクの化学史**」では意を尽くさない恨みがあるので、この書の内容を考えて「**ロウソクの科学**」とすることにした。」

それにしても飛躍しすぎという感がありますが、矢島さんが底本としたドイツ語版を見ると 「**Naturgeschichte einer Kerze**」

となっていて、ここには化学の文字はありません。**自然史**、あるいは**博物学**ですから矢島訳では科学に移るのは比較的自然だったかもしれません。その後の翻訳者も気にしながら結局、矢島訳を踏襲しています。フランス語訳では **chemical** を省いて、単に **Histoire** としていますし、スペイン語訳では直訳です。

#### ロウソクの科学の翻訳

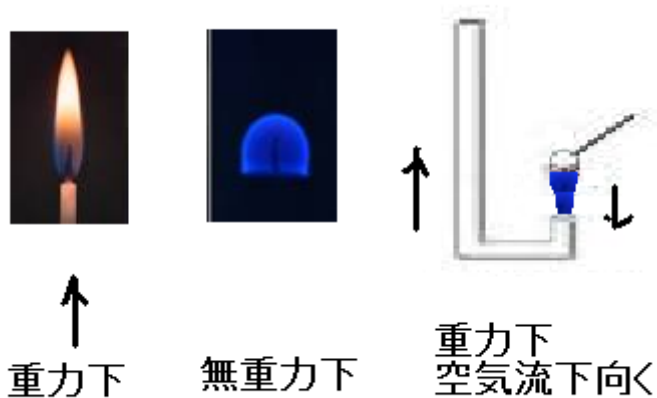
番号	翻訳名	翻訳者	出版社(年)	備考
1	蠟燭の科学	矢島祐利	岩波文庫 (1933)	ドイツ語訳を底本としています
2	ロウソクの科学 (改版)	矢島祐利	岩波文庫 (1956)	言葉の整理
3	ロウソクの科学	竹内敬人	岩波文庫 (2010)	ファラデーの伝記、解説が くわしいです
3	ろうそく物語	白井俊明	法政大学出版 局(1991) (2000) 改装 (2005)真相	
4	ロウソクの科学	三石巖	角川文庫 1962)	
5	ロウソクの科学	吉田光邦	講談社文庫 (1972)	
6	ロウソクの科学	日下実男	旺文社文庫 (1965)	

7	ろうそくの語る科学	岡邦雄	世界教養全集 30 平凡社	
8	ロウソクの科学	山形浩生	プロジェクト 杉田玄白	図がない
あと数冊はあります。何となく面倒なのでここで止めました。				
**	新ロウソクの科学	P.W.Atkins 著 玉虫伶太訳	化学同人 (1994)	内容は何の関係もありません。ファラデーのやり方に従って纏めたということです。

### 1-3) 日本のロウソク

この時代に日本からもロウソクを入手しているようですし、寄贈もあったようです。日本のロウソクはパラフィンではなくて蠟なのです。油（燭）から蠟（燭）に発展したのです。このあたりに化学史、あるいは「科学の発達史」の意味があったのかもしれませんが。

### 1-4) 空気の流れが無くなった炎



1-5) ロウソクの炎は生物か？

生 物	生物と無生物との中間	無生物
細胞からなる。 代謝が行われる。 刺激に対して反応する。 自己複製を行う。	自己複製を行う。	自己複製ができない。
(動物, 植物, 細菌, カビなど)	(ウイルス)	(ロボット, パソコン, 車, 電話, 本…)

この表で見る限り、**ローソクの火**はかなり生物に近いです。

1-6) Royal Institution Christmas Lecture

この講義は経済的な苦難を乗り越えて、現在までも続いています。(1939-1942 は戦争のため中止) 1936 年からは BBC でテレビ放送も始まっています。科学を教えるのは発祥の地イギリスでも難しいのです。講義の表題も典型的な科学の話から大きく変わってきているように思います。

日本でもロンドンと同じ講師で資料の一部を差し替えて行われています。しかし、テレビ画像で見る限り、若者の割合が日本の方がすくないようにもおもいますが……。



\*\*

\*\*

\*\*

\*\*

## 2) 第 64 回定例会(2015/04/24)の報告

2-1 出席 6名 メール送付数 約 800  
(奥山欠席)

2-2 配付資料

- ① 「Solid Phase Peptide Synthesis」 practical approach  
by E.Atherton, R.C.Sheppard (1997) IRLPress
- ② 「ビタミン C がガン細胞を殺す」 柳澤厚生(2009) 角川 SSC 新書

\* \* \* \* \*

## 3) 第 65 回定例会のおしらせ。

\*\*\*\*\*

バイオテクノロジー標準化支援協会 第 65 回 定例会

\*\*\*\*\*

日時 2015 年 05 月 22 日(金) 14 時 00 分—16 時 00 分

参加費：無料

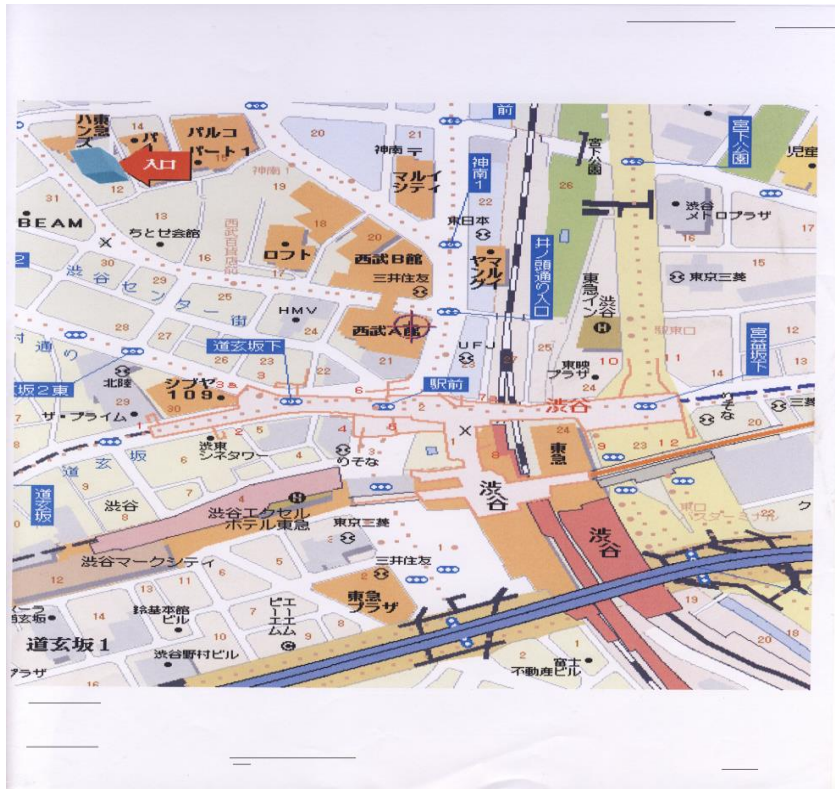
\* (定例会は会員でも会員でなくても自由に出席して、自由に発言も出来ます。)  
友人同士誘い合わせてご出席ください。出席するのが面倒な方はメールでご意見をお寄せください。

場所 八雲クラブ (ニュー渋谷コーポラス 10 階・1001 号) (首都大学東京同窓会)

住所： 渋谷区宇田川町 12-3

電話番号： 03-3770-2214

(地図はグーグルで八雲クラブ案内図) **赤い矢印の場所**です、。



## 話題

### ISO/Tc 47 Chemistry

- \* 1 SABS ジャーナル No.0022 に纏めました。それは5年前のことでしたが、話は何の変更もなく粛々と進んでいるようです。

Scope:

Standardization in the field of the chemical industry in general, particularly the basic chemical products the use of which is current in widely different industries, and which have not been covered by any of the other technical committees of ISO.

Total number of published ISO standards related to the TC and its SCs (number 118 includes updates):

Number of published ISO standards under the direct responsibility of ISO/TC 47 (number includes updates):	102
Participating countries:	18
Observing countries:	45

ISO/TC 47 - Secretariat

Japan ([JISC](#))

Japan Chemical Industry Association

Sumitomo Rokko Bldg.

1-4-1 Shinkawa Chuo-ku **JP-Tokyo 104-0033**

Secretariat: JISC

Secretary: Ms Reiko Nonaka

Chairperson: Mr. Motozo Yoshikiyo until end 2016

ISO Central Secretariat contact: Mr Yusuke Chiba

**Creation date: 1947**

E-mail: [rnonaka@jcia-net.or.jp](mailto:rnonaka@jcia-net.or.jp)

Subcommittees/Working Groups:

Subcommittee/Working Group	Title
<a href="#">ISO/TC 47/SC 1</a>	General methods - STANDBY

Liaison Committee to ISO/TC 47

*The below committees may see the documents of ISO/TC 47 :*

ISO committees in liaison:

[ISO/TC 10](#), [ISO/TC 12](#), [ISO/TC 28](#), [ISO/TC 34](#), [ISO/TC 42](#), [ISO/TC 48](#), [ISO/TC 69](#), [ISO/TC 79](#), [ISO/TC 86/SC 6](#), [ISO/TC 91](#), [ISO/TC 102/SC 2](#), [ISO/TC 129](#), [ISO/TC 132](#), [ISO/TC 134](#), [ISO/TC 176](#)

**\* 2** 「昨日・今日・明日」欄にも書きましたが、百数十年前には化学は科学として中心の学問分野ということで意気盛んでありました。古典化学の没落につれて Tc47 (1945の設置ですが) もその意欲をなくしていつているようです。実際には新しい領域が大きく広がっているのに目をそらせているようです。日本



はもはや老舗となり実績も大いにあり、chairman となっているのになにもしないでたんに「送り火」の役割を果たすだけというのはいかにも残念な話です。

. \*\*

\*\*\*

\*\*

4) ホームページに e-library のリストがあります。会員の方はその中から希望のものをご指摘ください。

バイオテクノロジー標準化支援協会からジャーナルをお届けします。

- ① 配信停止・中止希望; 返信にしてその旨お知らせください。
- ② 配信先等、登録情報変更希望; 返信にしてその旨お知らせください。
- ③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録を希望; 返信にして、その旨記載してください。または入会希望書に必要事項を記載の上 FAX 送信ください。詳細確認希望の場合はその旨記載下さい。こちらよりご連絡差し上げます。
- ④ ウェブサイトに関するご意見; 返信にして、ご意見を記載ください。